

学校評価アンケート集計から（R4年度版） △アップ・▼ダウン 3月版

※ 達成率は、グラフ中R3「思う」「そう思う」・R4「思う」「少し思う」との合計

学校教育目標（ミッション）

「心豊かなたくましい生徒の育成」
～調和のとれた「自立」をめざし～

- (1) 丈夫な体を持つ生徒 (体)
- (2) 優しい心を持つ生徒 (徳)
- (3) 豊かな知識を身につけた生徒 (知) の育成を通して

目指す生徒像（ビジョン）

多様性を認める生徒（Diversity Smile）
可能性に挑戦する生徒（Challenge）
主体的に学び続ける生徒（Update）

生徒の生活努力目標

- 中原中学校4つのキーワード：Smile、Diversity、Update、Challenge
- 「心を伝える あいさつ」、「心も磨く 掃除」、「心をつなぐ ありがとう」

重点目標（学校経営スローガン）

『グローバル社会で、たくましく生き抜くスキルを身につけた生徒の育成』

令和4年度研究テーマ

『課題解決学習を通して、考えを深めることのできる授業の工夫』
～ICT機器を活用した個の特性を踏まえた指導のあり方～

方針1 確かな学力の育成 「教え」から「学び」へ、「教室」から「学びの場」へ

- 【目標1】 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善
- 【目標2】 課題発見・解決能力と論理的思考の育成を図る教育の推進
- 【目標3】 エビデンスベースによる指導改善サイクル（RPDCA）の確立

結果	・授業に集中して取り組んでいる	(教 師 1 0 0 %→1 0 0 %)	—
		(生 徒 9 4 %→ 9 2 %)	▼
	・学習課題を明確に提示できた	(教 師 7 0 %→1 0 0 %)	△
		(生 徒 8 0 %→ 8 4 %)	△
	・授業が落ち着いている	(保 護 者 7 8 %→ 7 6 %)	▼
		(生 徒 8 7 %→ 8 6 %)	▼
	・授業の内容を理解している	(保 護 者 7 3 %→ 7 0 %)	▼
		(生 徒 8 7 %→ 8 6 %)	▼
	・有効的に ICT 活用ができた	(教 師 8 2 %→ 8 2 %)	
		(生 徒 6 4 %→ 8 6 %)	△
	・学習遅進生徒の指導はできた	(教 師 6 4 %→ 8 6 %)	△
		(生 徒 8 0 %→ 9 1 %)	△
	・研究テーマが理解され、実践されている	(教 師 7 8 %→ 7 8 %)	
		(生 徒 7 2 %→ 9 1 %)	△
	・教科の研修は充実していた	(教 師 9 6 %→ 8 6 %)	▼
		(生 徒 5 2 %→ 5 2 %)	

○教師の意見○

・授業に集中している、学習課題を明確に提示できた教師の回答が 100%にもかかわらず、生徒と保護者の授業の内容を理解しているという回答が下がっているため、提示した学習課題によって生徒の興味関心を引き出す、学習内容の理解に結びつけるなど、提示するだけでなく、効果的に活用する力が必要だと感じた。

・本時のめあて（学習課題）を提示することは基本となって良いと思う。次は、どのような1時間の内容であるかを明示できること、単元を貫く課題を設定することが大事だと思う。あとは指導と評価の連動。教科内でもルーブリック評価を考案していくのも必要だと思う。

・わかりやすい授業をするだけではなく、わからなくて困っている生徒に自分から寄り添っていけるようにしたい。

・保護者と生徒のアンケート結果を比べてみると、授業内容の理解の点で親は子どもが理解していると答え、生徒は昨年より「思う」の数値が下がっている。授業内容も段階をおって難しくなっているのはあきらかで、テストの結果に一喜一憂していることもあるだろう。1時間の中ですこしでも達成感のある課題を用意し、個々にあった声かけをしていく必要がある。また、より理解している生徒には、応用力をつけさせたい。

方針2 豊かな心の育成 自主・自律、当事者意識と他者意識の醸成

【目標4】 生徒の自己肯定感・自己有用感を高める教育の推進

【目標5】 組織で進める生徒指導・教育相談体制の構築

結果	・仲間関係は深まった	(教 師 1 0 0 %→ 9 6 %)	▼
	・学校行事に積極的に参加している	(生 徒 9 2 %→ 9 1 %)	▼
	・学校行事、式典が効果的である	(保 護 者 8 4 %→ 8 6 %)	△
	・言葉遣いは適切であった	(教 師 9 6 %→ 8 8 %)	▼
	・約束やきまりを守って生きている。	(生 徒 9 6 %→ 9 4 %)	▼
		(保 護 者 8 6 %→ 8 5 %)	▼
	・挨拶をしっかりと行っている	(教 師 5 6 %→ 8 0 %)	△
		(生 徒 9 6 %→ 9 6 %)	—
		(保 護 者 7 6 %→ 7 0 %)	▼
	・掃除をしっかりと行っている	(教 師 8 4 %→ 4 6 %)	▼
		(生 徒 9 7 %→ 9 2 %)	▼
	・信頼できる先生がいる	(生 徒 8 6 %→ 8 0 %)	▼
		(保 護 者 8 4 %→ 8 1 %)	▼
	・規則やルールが守られている	(生 徒 8 3 %→ 8 5 %)	△
		(保 護 者 7 9 %→ 8 3 %)	△
	・服装や身嗜みが整っている	(教 師 8 4 %→ 9 6 %)	△
		(生 徒 9 5 %→ 9 1 %)	▼
	・いじめで困っている人はいない	(生 徒 6 9 %→ 7 3 %)	△
		(保 護 者 4 0 %→ 4 5 %)	△
	・いじめへの対応ができた	(教 師 9 2 %→ 1 0 0 %)	△
	・個々の生徒との関わりはできたか	(教 師 1 0 0 %→ 8 8 %)	▼
	・不登校生徒への指導はできたか	(教 師 8 0 %→ 9 6 %)	△
	・人権を配慮しながら指導できたか	(教 師 9 6 %→ 9 6 %)	—
	・学年での生徒指導を含む協力体制はできている。	(教 師 8 8 %→ 9 2 %)	△
	・生徒指導で困っていることはない。	(教 師 8 0 %→ 7 3 %)	▼

○教師の意見○

・自身の言葉遣いや人間関係づくりが力不足であったため、結果を踏まえ指導にあたってい

きたい。

・「信頼できる先生がいる」、「約束や決まりを守って生活している」の両項目で前年度と比較し、その割合が生徒・保護者ともに減少している。この2項目は関連が強く、教員を信頼できないことが、規範意識の低下にも繋がってしまうのではないかと懸念している。この回答結果を、しっかりと受け止めて、日ごろの保護者・生徒とのかかわり方を見直していかなければならないと感じた。

方針3 教室と社会をつなぐ教育の推進

【目標6】 小中連携教育の推進

【目標7】 社会に開かれた教育課程の編成と実施

(1) 結果	・進路や職業について学習している	(保護者	61%→	63%)	△
	・PTA活動や地域行事に積極的に参加した	(教師		52%)	
	・社会性を身につけること等、部活動の意義を理解し活動させた。	(教師		100%)	

☆3年生プレゼン大会☆保育実習☆新入生説明会☆ゲストティーチャー☆ゆずり葉コンサート☆その他

○教師の意見○

・オンラインゲームやラインなどで、遅くまで通信しているなど自制できない生徒が多く困っている親御さんがいると思う。学習や睡眠に影響を与えているとわかっていても、家庭教育のしにくさがあるように思う。

方針4 安心・安全な教育環境の充実と学校運営の改善

【目標8】 学校・家庭・地域が連携した教育環境の充実

【目標9】 R-PDCAサイクルを生かした学校運営の改善

結果	・部活動の参加の状況はよかった	(教師	84%→	86%)	△
		(生徒	69%→	72%)	△
	・体力づくり	(保護者	69%→	72%)	△
	・給食が安全でおいしい	(生徒	86%→	78%)	▼
		(保護者	83%→	79%)	▼
	・交通安全に注意して登下校している	(生徒	99%→	93%)	▼
		(保護者	91%→	90%)	▼
	・教室の採光、換気の調節はできたか	(教師	92%→	100%)	△
	・環境が整ったきれいな学校である	(生徒	87%→	84%)	▼
		(保護者	88%→	85%)	▼
	・中原中は落ち着いた学校である	(生徒	90%→	82%)	▼
		(保護者	92%→	90%)	▼
	・掃除をしっかりと行っている	(教師	84%→	46%)	▼
		(生徒	97%→	92%)	▼
	・学級(学年)で毎日の健康観察はきちんとできている	(教師	100%→	91%)	▼
	・けがや病気の時家庭との連絡ができている	(保護者	88%→	89%)	△
	・PTA活動が効果的に行われている	(保護者	75%→	65%)	▼
	・学校からの情報がよく伝えられている	(保護者	94%→	90%)	▼
	・中原中に行くのが楽しい	(生徒	81%→	77%)	▼
	・中原中に通わせて良かった	(保護者	91%→	90%)	▼

・心身共に成長している	(生徒 83%→ 83%)	—
	(保護者 94%→ 91%)	▼
・学校勤務で困っていることはない	(教師 68%→ 65%)	▼
・ガイドラインにそった適切な休養日を設けた	(教師 96%→ 95%)	▼
・部活動時間に活動場所で指導・支援できた	(教師 91%)	

○教師の意見○

・清掃の数値をどのように変化させるべきか、要検討。大人の意識と生徒の意識変化。
 ・清掃指導は、教員側の課題でもあるので、声かけ等を積極的に行う必要がある。
 ・生徒と職員で認識が大きく異なっている項目である。学校全体としては落ち着いている中学校という評判はよく聞く。清掃に関しては、コロナ禍に生徒が入学し、それまで、地味な雑巾で床を拭く等の作業が禁止になり、解禁してからも雑巾を絞って拭く等の手を汚すことを避ける生徒が増えてきている。コロナ禍前の清掃の方法がしっかりできるようにする、というのが評価のAならば、委員会で点検やパトロールするだけでは弱いし、限界がある。全校レベルで取り組み、全職員が率先して行う（清掃時間内、前後は他の仕事をしない）覚悟が必要である。一方、働き方改革の問題もあり、効果的な道具を使用して、清掃の作業を新しく変えていく考えもあると思う。

【考察（成果と課題）】

・令和4年度は、「みんなでつくる魅力ある学校」の開催校として、一年間通して研究テーマをもとに「実践モデルプログラム」「学ぶ意欲」「学ぶ習慣」をつけることを意識した授業を研究した。特に「研究テーマへの理解」「学習課題の明確化」「教科研修の充実」は高く評価することができ、さらなる授業研究の充実が期待できる。一方、教師の意見にある通り、「授業の内容を理解している」と感じている生徒の割合は下がっている。教科によっては活用・分析が難しいものもあるが、全国や柏市学力テストの結果を分析し授業改善に役立て、引き続き学習遅進生徒へのより一層の細やかな指導・支援をしていく。

・学校行事の開催とともに、体験的な学習の機会が復活した年であった。生徒も保護者も「学校行事への積極的な参加」「部活動」「体力づくり」「学校行事・式典」についておおむね充実した学びを感じている。体験的な学習は生徒の主体性を育み、社会との関わりについて学ぶ機会となる。3年生で実施したNPOとの連携など外部機関を活用し、中原中のビジョン（多様性を認める生徒（Diversity Smile）可能性に挑戦する生徒（Challenge）主体的に学び続ける生徒（Update））の育成の機会を積極的に設け、これからの社会に求められる力・豊かな心を育みたい。

・生徒の努力目標として「心も磨く 掃除」を掲げているが、教師と生徒の達成地点に大きな差が見られた。点検でAを獲得することが目標になってしまっていないか、「清掃活動の意義」や「隅々まできれいにすることについて見つめなおしたい。

・昨年度に続き「信頼できる先生がいる」では下降傾向のままである。中原中で関わりのある教師との面談・指導・支援にとどまらず、幅広い視野で生徒との関わりをもっていきたい。例えば「チャンス相談」など日ごろなかなか関わりをもてない教師やSC（スクールカウンセラー）・SSW（スクールソーシャルワーカー）との教育相談を定期的に設定し、生徒がいつでも気軽に相談できる場をつくる必要性を感じている。また、「生徒指導で困っている教師」が増えている。経験年数の少ない教師の思いや悩みを教師同士互いに共有し、生徒の心を育む教師としての姿勢、人間関係の築き方、生徒への接し方などについて考えるような会議や研修を重ねたい。